

日本鳥学会 2019 年度大会 講演要旨集

The Ornithological Society of Japan Annual Meeting 2019

会期：2019 年 9 月 13 日（金）～16 日（月・祝）

会場：帝京科学大学千住キャンパス 7 号館

東京芸術センター天空劇場（公開シンポジウム）

大会案内

<概要>

主催：日本鳥学会

後援：帝京科学大学（創立 30 周年記念事業）

協賛：サントリーホールディングス株式会社、株式会社モンベル

会期：2019 年 9 月 13 日（金）～16 日（月・祝）

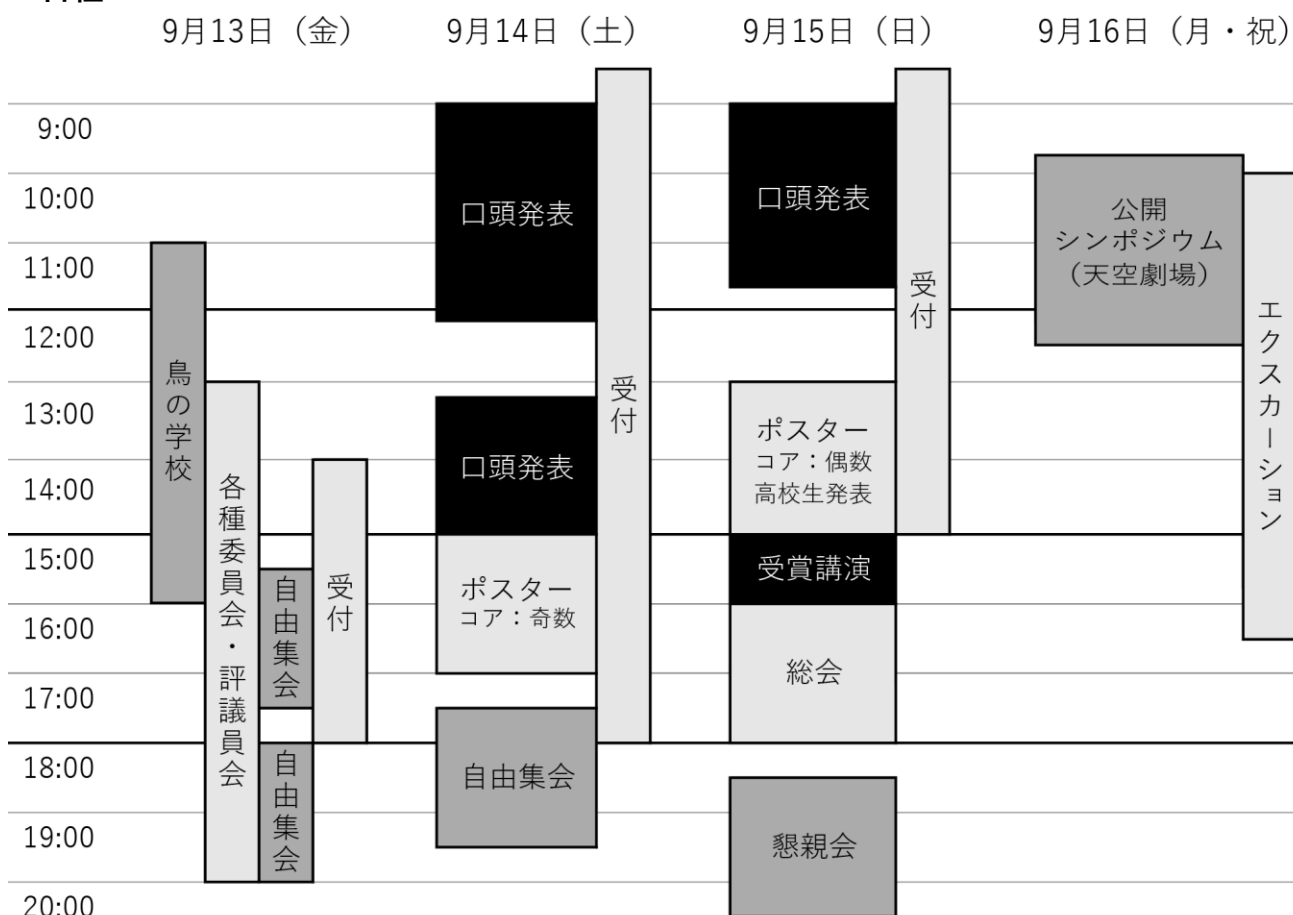
会場：帝京科学大学千住キャンパス 7 号館（13～15 日会場）

（東京都足立区千住桜木 1-11-1、北千住駅西口より徒歩 20 分・バス 11 分）

天空劇場（16 日公開シンポジウム会場）

（東京都足立区千住 1-4-1、北千住駅西口より徒歩 10 分）

<日程>



- ・受付開始時間は 13 日 14:00、14 日・15 日 8:30、16 日 9:00 です。
- ・ポスターの掲示可能期間は 13 日 14:00～15 日 17:00 です。コアタイムは奇数番号のポスターが 14 日 15:00～17:00、偶数番号および高校生発表が 15 日 13:00～15:00 です。

[大会案内]

<交通アクセス・会場案内>

(1) 帝京科学大学千住キャンパス7号館（13～15日会場）へのアクセス

・最寄り駅：「北千住駅」(JR常磐線・東武スカイツリーライン東武伊勢崎線・東京メトロ千代田線・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス)

・北千住駅からのアクセス：



徒歩の場合：駅から約20分。北千住駅西口から直進、千住龍田町交差点を右折、セブンイレブンを越えてすぐの交差点を左折（地図参照）。

バスの場合：駅から約11分（バス約8分・下車後徒歩3分）。北千住駅西口北千住駅西口にて下記いずれかのバスに乗車、「千住竜田町」バス停で下車後、道なりに進み、セブンイレブンを越えてすぐの交差点を左折（地図参照）。



乗り場	バス会社	路線	料金	備考
3	都営バス	端 44 「駒込病院前」 行き	210 円 (IC206 円)	前乗り・前払い
		王 45 「王子駅」 行き	210 円 (IC206 円)	前乗り・前払い
2, 4	東武バス	北 01・02・03 「西新井大師」 行き	220 円 (IC216 円)	前乗り・前払い
		北 04 「西新井駅西口」 行き	220 円 (IC216 円)	前乗り・前払い
		北 05 「江北駅」 行き	220 円 (IC216 円)	前乗り・前払い

(2) 帝京科学大学千住キャンパス 7 号館 (13~15 日会場) 会場案内

発表会場等の配置については下表とフロアマップをご覧ください。

内容	教室名等
受付	1 階エントランスホール
クローク	1 階エントランスホール
委員会	3 階共用セミナー室 1・2・3・4
評議員会	4 階 7401 教室
自由集会	2 階 7201・7204・7205 教室・4 階 7402・7404 教室
展示販売	5 階アリーナ
休憩室	2 階通路・5 階アリーナ
口頭発表 A 会場	2 階 7202 教室
口頭発表 B 会場	2 階 7203 教室
ポスター発表	5 階アリーナ
食堂 (昼食)	5 階カフェテリア (14・15 日のみ 11:30~13:00 営業)
総会	2 階 7202・7203 教室 (口頭発表 A・B 会場)
受賞講演	2 階 7202・7203 教室 (口頭発表 A・B 会場)
懇親会	5 階カフェテリア
大会実行委員会本部	3 階図工室

1 階



2 階



3 階

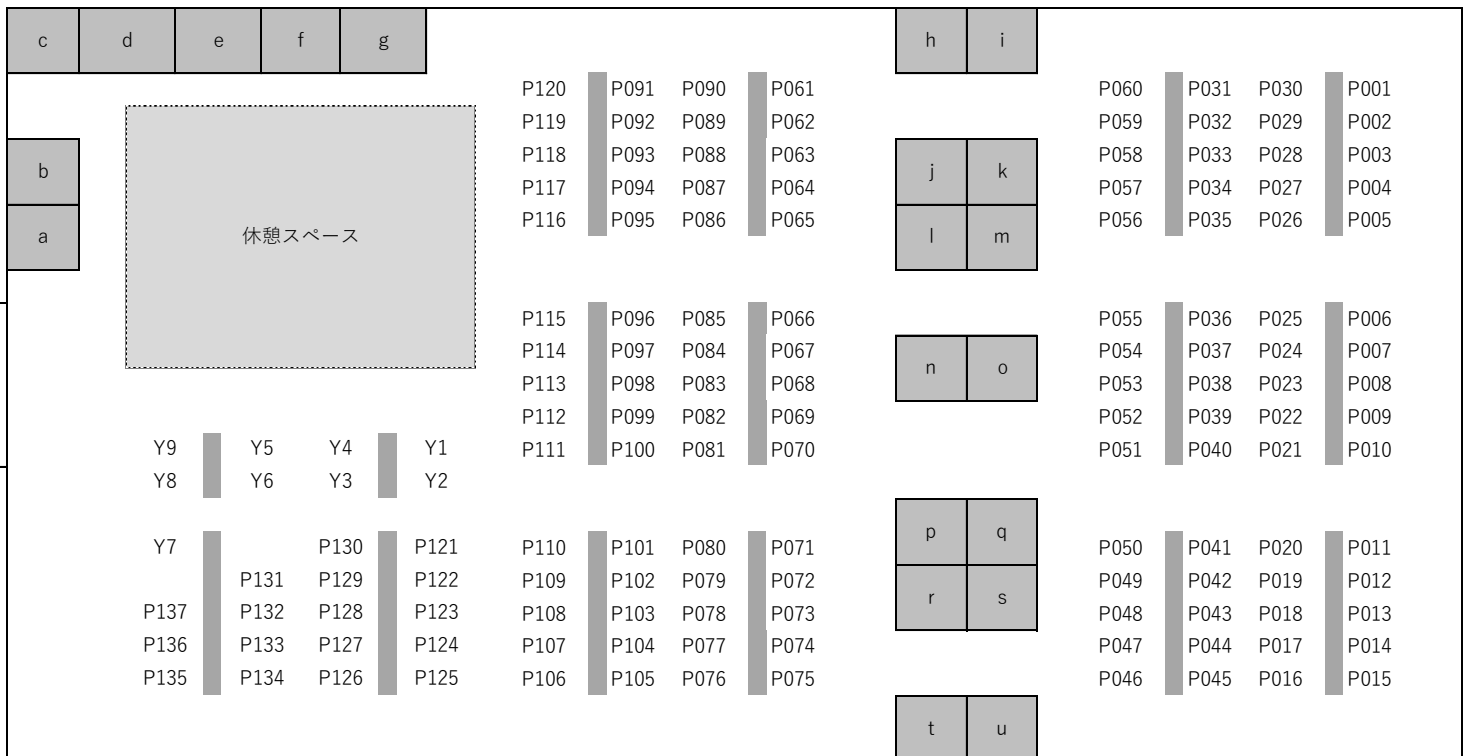


4 階

5 階



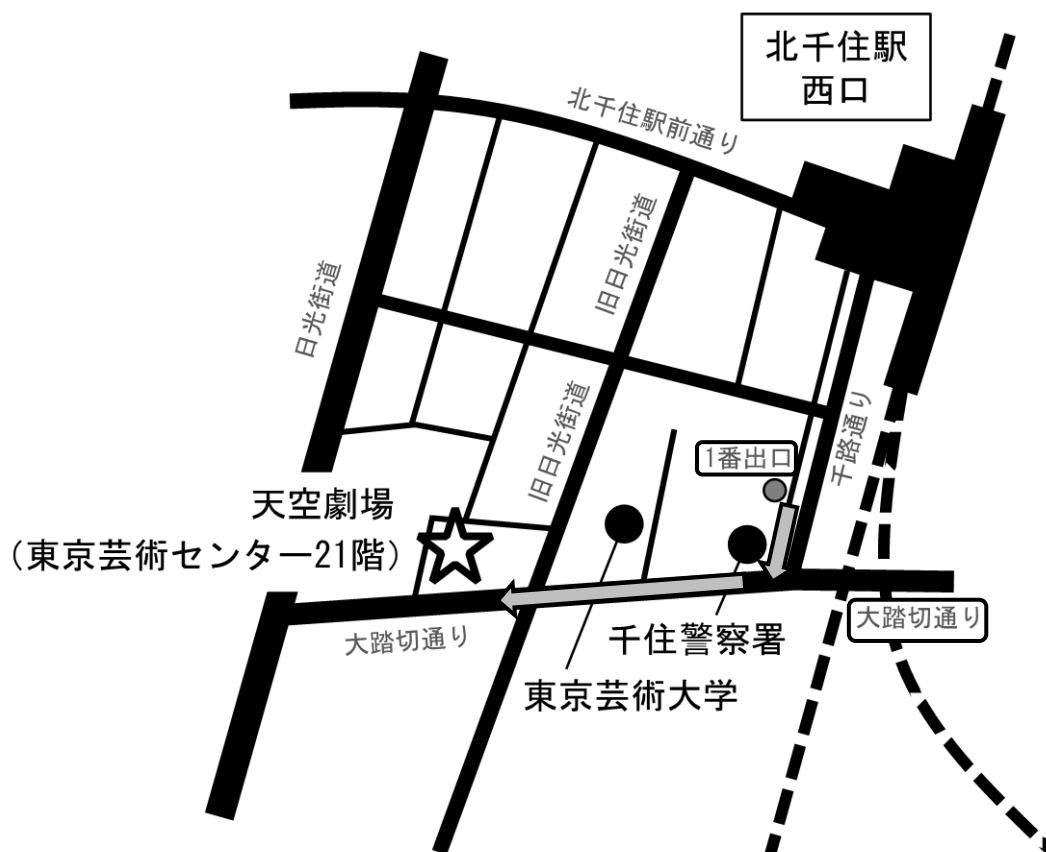
5 階アリーナ内



* P で始まる番号はポスター発表番号。Y で始まる番号は高校生ポスター発表番号。a~u は展示販売ブース番号。

(3) 天空劇場（16日会場）へのアクセス

- ・公開シンポジウム会場は、北千住駅西口より徒歩約10分にある天空劇場（東京芸術センター21階）です。事前予約・参加費不要、先着400名までご参加いただけます（9時開場・受付開始）。
- ・最寄り駅：「北千住駅」（JR常磐線・東武スカイツリーライン東武伊勢崎線・東京メトロ千代田線・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレス）
- ・北千住駅からのアクセス：



駅から徒歩で約10分。北千住駅西口の「1番出口」から地上に出て右に進み、大踏切通りに突き当たったら右に進むと千住警察署、東京芸術大学の順にあります。少し進むと「東京芸術センター」が見えてきます。この建物の21階が「天空劇場」です。



(4) 天空劇場（16日会場）会場案内

- ・参加者用の駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。
- ・東京芸術センター内には飲食店がありません。飲み物の自動販売機は会場およびいくつかのフロアにありますが、数が限られ

[大会案内]

ているため当日は売り切れになる可能性があります。周辺にはコンビニや飲食店があります。

- ・会場内での飲食は、ペットボトルの飲み物を除いてご遠慮ください。また、会場にはゴミ箱がありません。ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ・当日は受付先着順で粗品が配られます（参加者全員分はなく、なくなり次第終了）。
- ・事前予約および参加費は不要です。消防法の関係上、会場の定員は 400 名となっております。定員を超えた場合には会場に入ることができません。あらかじめご了承ください。
- ・天空劇場を含み、東京芸術センター内は禁煙です。喫煙所もございません。
- ・会場内はバリアフリーで、車椅子用スペースが 4 名分あります。

<受付>

13～15 日の大会受付は帝京科学大学千住キャンパス 7 号館 1 階入口です。名札をお渡ししますので、会場では必ず着用ください。受付時刻は以下の通りです

13 日（金）：14:00～18:00

14 日（土）：8:30～18:00

15 日（日）：8:30～15:00

16 日の公開シンポジウムの受付は、天空劇場の入り口です。

16 日（月祝）：9:00～11:00

<クローク>

13～15 日には 1 階エントランスの一角で荷物をお預かりします。シンポジウム会場にはクロークはなく、また会場も狭いので、大きな荷物はホテルに預けてくるか、あるいは北千住駅および周辺のコインロッカー等をご利用ください。

13 日（金） 14:00～18:00

14 日（土） 8:30～18:00

15 日（日） 8:30～18:00

※貴重品はお預かりできません。荷物は利用時間内に必ずお引き取りください。

<総会>

総会は 15 日（日）16:00～18:00、帝京科学大学 7 号館 2 階 7202・7203 教室（口頭発表 A・B 会場）で行ないます。学会員の方は極力ご参加ください。参加できない場合は、受付に用意された総会委任状を記入し、提出してください。

<口頭発表>

・時間と機材

発表時間 12 分以内、質疑/発表交代を含めて 15 分以内を厳守してください。使用できる機器は大会事務局が用意したコンピューターです。OS は Windows 7 professional、使用できるアプリケーションは MS-PowerPoint 2013（他のバージョンでファイルを作成した場合、プレゼンテーション機能の一部を利用できない恐れがあります）、または Adobe Acrobat Reader、使用可能なファイル形式は ppt、pptx、pdf です。個人のコンピューターは基本的に使えません。

・発表ファイルの提出

口頭発表用のファイルは、発表の前日 17 時までに、受付に提出してください。ファイルは USB メモリーでの提出とし、ファイルサイズ 20MB 以内とします。なお、14 日（土）に発表される方については、メール添付による提出も受け付けますので、13 日（金）17 時までに専用アドレス（happyo@ornithology.jp）までお送りください。ファイル名は「会場名（A または B）_発表番号」としてください（発表番号については「早期参加者名簿」（162 ページ）をご確認ください）。お預かりしたファイルは、発表終了後に大会事務局が責任を持って消去します。

・座長

本大会でも、口頭発表をされた方には直後の発表の座長（司会進行）を担当していただきます。皆様のご協力をお願いします。

<ポスター発表>

ポスターは A0 サイズ（横 841mm×縦 1189mm）以内になるようご用意ください。特に横幅はそれより大きいと、隣にはみ出てしまいます。掲示用具は大会事務局で用意します。

ポスターは 13 日（金）14 時から 15 日（日）17 時まで掲示しておくことができます。ポスターの掲示と撤去は各自の責任でお願いします。掲示期間後も掲示されているポスターは大会事務局が撤去します。

演者はポスターのコアタイムにポスターの前で説明を行ってください。

・発表番号が奇数： 14 日 15:00～17:00

・発表番号が偶数および高校生ポスター：15 日 13:00～15:00

優秀な高校生ポスターは表彰を行います。表彰式は 15 日（日）16 時から 2 階 7202・7203 教室（口頭発表 A・B 会場）で開かれる総会の中で行ないます。

<日本鳥学会ポスター賞>

今大会でも、若手の独創的な研究を奨励する目的で「日本鳥学会ポスター賞」を選出します。ポスター賞応募者は、必ず、14 日（土）午前 9 時までにポスターを掲示してください。ポスター賞受賞者の表彰式は 15 日（日）16 時から 2 階 7202・7203 教室（口頭発表 A・B 会場）で開かれる総会の

[大会案内]

中で行ないます。なお、今年も、株式会社モンベルより受賞者に記念品が謹呈されます。

<高校生ポスター発表>

本大会では、鳥学を担う若手を育てるために、高校生（小中学生）を対象としたポスター発表を15日（日）に開催し、優秀な発表を表彰します。会場は一般のポスターと同じ5階アリーナです。なお、株式会社モンベルより参加者へのプレゼント、公益財団法人日本野鳥の会から表彰者への副賞が贈呈されます。

<自由集会>

13日（金）と14日（土）に開催いたします。自由集会会場には液晶プロジェクターおよびモニターケーブル（ミニ D-sub15pin および HDMI）が備え付けられています。パソコンは自由集会の主催者をご用意ください。自由集会は指定時間内に終了してください。会場の運営・後片付けは、主催者の責任で行なってください。

<委員会>

下記の日程と会場で、各種委員会及び評議員会を開催します。委員の方はお集まりください。

13日（金）13:15～15:15

委員会	フロア	教室名
英文誌編集委員会	3階	共用セミナー室1
企画委員会	3階	共用セミナー室2
和文誌編集委員会	3階	共用セミナー室3
鳥類保護委員会	3階	共用セミナー室4

13日（金）15:30～17:30

委員会	フロア	教室名
目録編集委員会・鳥類分類委員会・日本産鳥類記録委員会	3階	共用セミナー室1
広報委員会	3階	共用セミナー室2
基金運営委員会	3階	共用セミナー室3

<懇親会>

懇親会は15日（日）18:30～20:30、5階カフェテリアで行ないます。懇親会会場入り口にて、大会スタッフが名札上の懇親会参加表記を確認いたしますので、必ず名札をご持参ください。名札をお

持ちでない場合はご入場いただけませんのでご注意ください。

なお、今大会も愛鳥キャンペーン・環境活動を行っておられるサントリーホールディングス株式会社より飲み物の提供をいただいています。

<会場での撮影・録音>

参加者の肖像権、発表における著作権への配慮のため、参加者が他者や他者の発表の録音、録画、撮影等を行うことは禁止します。なお、大会事務局において、大会の記録のため写真撮影等を行うことがありますのでご了承ください。

<展示販売>

5 階アリーナで企業・団体による展示販売が行なわれます。どうぞご利用・ご覧ください。展示企業・団体の詳細につきましては、33 ページをご覧ください。

<昼食>

14 日（土）、15 日（日）は 5 階カフェテリアで昼食をとることができます。夏季休業期間中の営業で限りがあります（数メニューのみ、150 食程度）。11:30 より営業し、ラストオーダーは 13:00 です。お早めにご利用ください。

コンビニはすぐそばにセブンイレブンが、少し歩くとローソンとファミリーマートがありますので、そちらもご利用ください。食堂は近くにはあまりありませんが、駅の方に 10 分ほど歩けばたくさんあります。

<休憩室>

会期中 2 階通路、5 階アリーナ（ポスター・展示販売会場）内に休憩スペースを設けています。今回はサントリーホールディングス株式会社より飲み物の提供をいただいています。

<会場内の禁煙>

会場は、全面禁煙です。禁煙にご協力ください。

<ゴミ>

会場内で発生したゴミは、各自お持ち帰りください。

<公開シンポジウム>

『ペンギンを通して学ぶ生物の環境適応と生物多様性保全』

日時：2019年9月16日（月・祝）9:45～12:30（9:00開場・受付開始）

場所：東京芸術センター21階 天空劇場 定員：400名（先着順受付）

コーディネーター：森 貴久（帝京科学大学）・山本誉士（統計数理研究所）

趣旨：

生物はこれまでの長い進化の過程で、生息環境に適応した行動や生態を獲得している。しかしながら、地球温暖化や人間活動により、近年の環境は短時間で急速に変化している。彼らの環境適応機構を理解できれば、環境変化が生物種に及ぼす影響とそのメカニズムをより明確に理解でき、生物多様性の保全に寄与できる。そこで、今回のシンポジウムでは「適応」をキーワードとして、環境に適応した生物が環境の変化にどのように影響を受けるのかについて、ペンギンを題材に考えることとした。ペンギンが獲得した行動や生態における環境適応が、近年の温暖化や漁業活動などによる短期間の急速な環境変動によってどのような結果をもたらすのかを明らかにする。

本シンポジウムでは、ペンギンにおける4つの「適応」について講演する。まず、地球史スケールの環境変化への適応としての「ペンギンの進化」をとりあげ、つぎに水中環境への適応としての「ペンギンの行動と生理」を解説する。そして、このように環境に「適応」してきたペンギンが現在の「地球温暖化」と「人間の活動」に対してどのように「適応」しようとしているのか、現状を紹介し、保全について考える。人気の高いペンギンを題材にすることで、幅広い世代の人々に環境適応と多様性保全に興味関心を持っていただくことを期待している。

プログラム：

- | | |
|---------------|--|
| 9:00 | 開場・受付開始（定員400名・先着順受付） |
| 9:45 - 10:00 | 趣旨説明：生物の環境適応と生物多様性保全（森 貴久・帝京科学大学） |
| 10:00 - 10:25 | ペンギンと地球の6600万年史（安藤達郎・足寄動物化石博物館） |
| 10:25 - 10:50 | 水中環境に適応したペンギンの行動・形態的特徴（佐藤克文・東京大学大気海洋研究所） |
| 10:50 - 11:00 | 休憩 |
| 11:00 - 11:25 | 気候変動がペンギンに与える影響（高橋晃周・国立極地研究所） |
| 11:25 - 11:50 | 人為活動がペンギンに与える影響（山本誉士・統計数理研究所） |
| 11:50 - 12:00 | 休憩 |
| 12:00 - 12:30 | 総合討論（コメンテーター：上田一生・日本ペンギン会議） |

* 各講演の要旨については35ページをご覧ください。

< 黒田賞受賞記念講演 >

吉川 徹朗 氏（国立環境研究所）
「鳥類と植物をつなぐ多様なネットワークを紐解く」

日時：15 日（日）15:00～16:00

場所：2 階 7202 教室（口頭発表 A 会場）および 7203 教室（口頭発表 B 会場）

[大会プログラム]

< 口頭発表 >

14 日 (土) A 会場 (2 階 7202 教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	A01	海鳥の個体数減少の原因に関する世界的総合評価	○鈴木康子・Maria Dias (バードライフ・インターナショナル)
9:15	A02	海鳥の越冬行動と水銀濃度	○庄子晶子 (筑波大)・Stephane Aris-Brosou (オタワ大)・Annette Fayet (オックスフォード大)・綿貫豊 (北海道大)・Kyle Elliott (マッギル大)
9:30	A03	まぐろはえ縄漁業混獲による南半球 <i>Diomedea</i> 属アホウドリ類生態的リスクの推定	○越智大介 (国際水研)・Edward Abraham (Dragonfly Datasience)・井上裕紀子・大島和浩 (国際水研)・Yvan Richard (Dragonfly Datasience)・Nathan Walker (ニュージーランド第一次産業省)・辻祥子 (国際水研)
9:45	A04	カモメ類を指標にした洋上風発衝突リスクマップ	○綿貫豊 (北大)・風間健太郎 (早稲田大)
10:00		休憩 (5 分)	
10:05	A05	海底地形に応じて海鳥の密度が著しく変化した一例: 尻屋海脚のオオミズナギドリ採餌群	○平田和彦 (千葉県立中央博)・綿貫豊 (北海道大)
10:20	A06	海鳥の繁殖地七ツ島大島における国内初のアナウサギ根絶の報告	○益子理 (いであ)・房村拓矢 (環境省)
10:35	A07	ウミスズメ類の繁殖地の緯度と空気中対水上の休息時代謝量の関係	○新妻靖章・梅山愛加 (名城大)・白井正樹 (電中研)
10:50	A08	北海道天売島で繁殖するウトウの採餌場所	○大門純平 (北大院水)・庄子晶子 (筑波大)・伊藤元裕 (東洋大)・綿貫豊 (北大院水)
11:05		休憩 (5 分)	
11:10	A09	天売島ウミスズメ個体群の遺伝的特性	○杉田典正 (科博植物)・松井晋 (東海大)・西海功 (科博動物)
11:25	A10	新潟海岸におけるミユビシギの採食生態 (続報)	○千葉晃 (新潟市・元日歯大)
11:40	A11	タシギ属 3 種における鳥類血液寄生原虫保有状況の解明	○犬丸瑞枝 (日大・獣医)・小田谷嘉弥 (我孫子市鳥の博物館)・越後谷裕介 (日大・獣医)・佐藤雪太 (日大・獣医)
11:55	A12	鳥インフルエンザウィルスの M セグメントを効率よく検出できるプライマーの作製と応用	○小柳充 (新潟大学農学部)
12:10		昼休み (1 時間)	

14日(土) B会場(2階7203教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	B01	関東地方におけるタマシギ個体数の空間分布および経年変化に湛水休耕田が与える影響	○片山直樹(農研機構・農環研)・小田谷嘉弥(我孫子博)・吉田保志子(農研機構・中央農研)・天野達也(Univ Queensland)
9:15	B02	溜池が北限のサシバを支える? - 溜池周辺の湿地環境が創り出すサシバの生息適地 -	○藤田剛(東大・農)・東淳樹(岩手大・農)・宮下直(東大・農)
9:30	B03	野辺山高原ではオオヨシキリの生息環境がヨシ原以外になりつつある	○今西貞夫
9:45	B04	神奈川県沿岸域のウ類の峙および休息場における個体数の季節変動	○田中雅宏(日大)
10:00		休憩(5分)	
10:05	B05	球磨川河口のシギ・チドリ類群集組成の季節変化	○高野茂樹(日本野鳥の会熊本県支部)・逸見泰久(熊本大)
10:20	B06	岩木川の河畔林構造が鳥類相に与える影響	○笠原里恵(信大・理)・押切麻衣子(北海道庁)・東信行(弘大・農生)
10:35	B07	電柱鳥類学: 止まり木としての電柱・電線の利用状況の種差と季節変化	○森本元(山階鳥研・東邦大)・三上かつら(バードリサーチ)・上野裕介(石川県立大)・三上修(北教大)
10:50	B08	スズメにとって腕金は快適な営巣環境なのか?	○三上修(北教大)・森本元(山階鳥研)・上野裕介(石川県立大)・三上かつら(バードリサーチ)
11:05		休憩(5分)	
11:10	B09	巣箱からのアナロジー・巣箱の乗っ取り	○内田博(比企野生生物研究所)・今西貞夫(八王子市)
11:25	B10	DNAメタバーコーディングによる猛禽類5種の食性解析	○清水拓海(慶応大)・長船裕紀・湯浅拓輝(慶応大)・夏川遼生(横国大)・一ノ瀬友博(慶応大)
11:40	B11	ミサゴ繁殖生態、採餌環境、渡り、雛への給餌魚種・サイズ・量・熱量	○阿部學(ラプタージャパン)・立野祐輔(信濃川河川事務所)・中島拓也(ラプタージャパン)・橋本哉子(ラプタージャパン)
11:55	B12	オオワシは月夜にサケを狩る・サケ後期群産卵場におけるオオワシの採餌行動について	○外山雅大(根室市)・松本潤慶(日本野鳥の会)
12:10		昼休み(1時間)	

[大会プログラム]

(口頭発表つづき)

14日(土) A会場(2階7202教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
13:10	A13	コクガンの秋季の渡りルートについて	○澤祐介(バードライフ)・池内俊雄(雁の里親友の会)・田村智恵子(新潟県水鳥湖沼ネットワーク)・嶋田哲郎(伊豆沼財団)・藤井薫・石下垂衣紗(道東コクガンネットワーク)・David Ward(アメリカ地質調査所)・Cao Lei(中国科学院)
13:25	A14	チゴモズの渡り経路の推定と生息環境	○谷口裕紀・横山陽子・小村健人・益子理・大坪二郎・柏原聡・原田俊司・田悟和巳(いであ株式会社)・小池重人(日本野鳥の会新潟県)・Anders P. Tøttrup(Copenhagen University)・樋口広芳(慶応大学)
13:40	A15	日本に迷行する鳥類の気象要因解析	○太田佳似(気象予報士会)
13:55	A16	異常気象が鳥の渡りと種子散布ネットワークに与える影響	○大河原恭祐(金沢大・生命理工)・木村一也(石川県森林組合)・佐藤文男(山階鳥類研究所)
14:10		休憩(5分)	
14:15	A17	カラスバトは島間の種子散布に貢献するのか	○安藤温子(国環研)・森由香(東京都鳥獣保護管理官)・佐藤望(バードリサーチ)
14:30	A18	名古屋城・本丸御殿の襖絵に描かれた鳥の問題点	○樋口広芳(慶應大)

14日(土) B会場(2階7203教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
13:10	B13	繁殖中のカンムリクマタカ雌が見せた予想外の行動	○金田大(金田野生動物研究所/京都大野生動物/北陸鳥類調査研究所)
13:25	B14	オガサワラノスリの分散過程における滞在地点の特徴	○葉山雅広(東北鳥研小笠原)・野中純(オオタカ保護基金)・由井正敏(東北鳥研)
13:40	B15	越冬期の鳥類への大型風車と中型風車による影響の違い	○武田恵世(日本野鳥の会・三重)
13:55	B16	ガンカモ一斉調査を活用した水上太陽光発電施設設置によるカモ類渡来羽数変化について	○尾原正敬((株)千代田コンサルタント)
14:10		休憩(5分)	
14:15	B17	GPS-TXによる越冬期のマガモ、カルガモの行動追跡	○嶋田哲郎(伊豆沼財団)・植田睦之(バードリサーチ)・高橋佑亮(伊豆沼財団)・内田聖(里山自然史研)・時田賢一(慶応大)・杉野目齊(仙台市)・三上かつら(バードリサーチ)・矢澤正人(数理設計)
14:30	B18	夜間に囀る鳥類の生息把握のための自動録音機の有効性	○萩原陽二郎・横山陽子・鈴木敏弘・賀川真樹・斎藤史之(いであ株式会社)・栗山康弘・渡邊弘隆・水野利香(新丸山ダム工事事務所)
14:45	B19	録音モニタリングを用いたリュウキュウコノハズクのステージ別繁殖成功の評価	○井上遠(東大院・農)・三浦雄大(中大・理工)・大坂真希(東大院・農)・吉田丈人(地球研/東大・総合文化)・鷺谷いづみ(中大・理工)

[大会プログラム]

(口頭発表つづき)

15日(日) A会場(2階7202教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	A19	東京都心ビル街屋上でのウミネコの繁殖 — 営巣場所の移動と個体の行動範囲 —	○松丸一郎(都市鳥研究会)・富田直樹(山階鳥研)・澤祐介(バードライフ)・佐藤達夫(行徳野鳥観察舎友の会)・奴賀俊光(日本野鳥の会)・平田和彦(千葉県立中央博)・樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
9:15	A20	本州でのツツドリのウグイスへの托卵はホトギスに影響するか?	○東條一史(森林総研)・中村秀哉(常磐大学)
9:30	A21	セイタカシギによる代用物に対する交尾行動	○北川珠樹(世田谷学園)
9:45	A22	カラス類の鏡像認知について	○中村眞樹子(NPO法人札幌カラス研究会)
10:00		休憩(5分)	
10:05	A23	野生のタップダンサー: 野外環境におけるセイキョウウの求愛ディスプレイ	○太田菜央(マックスプランク鳥類学研究所)・Manfred Gahr(マックスプランク鳥類学研究所)
10:20	A24	ヤマガラ種の認知に対するシジュウカラの影響	○濱尾章二(国立科博)
10:35	A25	渡り追跡を統合した系統地理学が明らかにする日本固有鳥種の系統分化の新シナリオ	○青木大輔(北大)・坂本春菜(北大)・松宮裕秋(信州大)・Alexey P. Kryukov(Russian Academy of Science)・北沢宗大(北大)・高木昌興(北大)
10:50	A26	沖縄島のリュウキュウキビタキについて	○茂田良光(山階鳥研)・嵩原建二・佐野裕彦・庄山守・山田真司・渡久地豊・山城正邦・辻本大地・田中智・森河貴子
11:05		休憩(5分)	
11:10	A27	琉球列島のリュウキュウコノハズクは多型種か二種か	○高木昌興(北大)・澤田明(北大)・齋藤武馬(山階鳥研)
11:25	A28	アホウドリの隠ぺい種: <i>Phoebastria albatrus</i> の名を継ぐのは誰か	○山崎剛史(山階鳥研)・江田真毅(北大)・泉洋江(北大)・佐藤文男(山階鳥研)

15日(日) B会場(2階7203教室)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:00	B20	マイクロサテライト多型解析で示された絶滅危惧種オオトラツグミの低い遺伝的多様性	○森さやか(酪農学園大)・泉洋江(北大総合博)・千葉悟(ふじみュー)・西海功(科博)・水田拓(奄美野生生物保護セ)
9:15	B21	絶滅した中央アルプスのライチョウは、どの集団に遺伝的に近かったか?	○西海功(国立科博)・福田真(環境省)・杉田典正(国立科博)・笠原里恵(信大・理)・中村浩志(中村鳥研)
9:30	B22	ライチョウが絶滅した中央アルプスに飛来したメスの有精卵入れ替えによるヒナの誕生	○小林篤(東邦大)・福田真(環境省信越事務所)・中村浩志(中村浩志国際鳥類研究所)
9:45	B23	野生復帰ヤンバルクイナの野外での繁殖記録	○尾崎清明(山階鳥研)・渡久地豊(工房リュキュウロビン)・金城道男・玉那覇彰子・向真一郎・中谷裕美子・長嶺隆(どうぶつたちの病院沖縄)
10:00		休憩(5分)	
10:05	B24	コウノトリは何をどこで食べている? -ミートソースみたいな秋のペリットから-	○伊崎実那(兵庫県立大大学院)・江崎保男(兵庫県立大大学院)
10:20	B25	千葉県野田市の水田環境におけるコウノトリ餌動物量を決定する要因	○桑原里奈(兵庫県立大)・山崎響子((株)日光自然博物館)・坂入一瑳((株)アジア航測)・大見享子・朝見清孝・遠藤立((公財)日本生態系協会)・栗山(武田)広子(豊岡市立コウノトリ文化館)・長谷川雅美(東邦大)
10:35	B26	水田の圃場整備と管理手法が越冬期のトキの採餌利用に及ぼす影響	○中津弘・永田尚志(新潟大佐渡自然共生科学センター)
10:50	B27	トキによる稲踏みの影響と対策について	○永田尚志(新潟大)・中津弘(大阪市)・油田照秋(山階鳥研)
11:05		休憩(5分)	
11:10	B28	人間の接近が野生トキへ与える影響	○岡久雄二(環境省・佐渡)
11:25	B29	ブッポウソウの breeding biology	○黒田聖子・江崎保男(兵庫県立大・地域資源マネジメント)

[大会プログラム]

<ポスター発表>

奇数番号の発表のコアタイム：14日（土） 15:00～17:00

偶数番号の発表のコアタイム：15日（日） 13:00～15:00

会場：5階アリーナ

発表番号*	タイトル	発表者
P001	北海道利尻島における海鳥類保護の現状とその要因	○風間麻未（利尻自然研）・風間健太郎（早稲田大）
P002#	飼育下マゼランペンギン幼鳥における給餌量と体重増減の関係	○堀田千尋（須磨海浜水族園）
P003	北海道北部における繁殖海鳥へのウミドリマダニの寄生状況	○風間健太郎（早大）・高橋守（埼玉大）・新倉（座本）綾（感染研）・沖山幹（東京コミュニケーションアート専門学校）・佐藤雅彦（利尻町博）・風間麻未（利尻自然研）
P004	Diet of Streaked Shearwaters in Awashima	○Chamitha De Alwis（Nagaoka Uni. of Tech）・Ken Yoda（Nagoya Uni.）・Maki Yamamoto（Nagaoka Uni. of Tech）
P005	コシジロウミツバメの消化管から発見されたマイクロプラスチック	○岩見恭子（山階鳥研）・富田直樹（山階鳥研）・渡辺有希子（猛禽類医学研）・齋藤慶輔（猛禽類医学研）
P006#	神子元島のカムリウミスズメが繁殖期に利用する海域	○古口大雅（帝科大）・二階堂仁美（帝科大）・手嶋洋子（日本野鳥の会）・田尻浩伸（日本野鳥の会）・山本裕（日本野鳥の会）・森貴久（帝科大）
P007	天売島におけるウミガラス保護増殖事業の経緯と現状	○岩原真利（北海道地方環境事務所）・小池大二郎（北海道地方環境事務所）・松井晋（東海大学）
P008#	餌環境の変化がウトウの生理ストレス状態に与える影響	○島袋羽衣（総研大）・高橋晃周（総研大・極地研）・大門純平（北大）・國分互彦（総研大・極地研）・Jean-Baptiste Thiebot（極地研）・Alexis Will（極地研）・綿貫豊（北大）・Alexander Kitaysky（アラスカ大）
P009	天売島で繁殖するウミスズメの外部形態の性的二型	○松井晋（東海大）・Darrell Whitworth（CIES）・杉田典正（科博）・西海功（科博）
P010#	野生下ウミネコ(Larus crassirostris)における水銀汚染の影響	○谷日向子（名城大）・新妻靖章（名城大）・水谷友一（名大）
P011	育雛期初期におけるウトウの親鳥のエネルギー消費量と雛の成長速度の関係	○永谷奈央（名城大）・大門純平（北大院水）・白井正樹（電中研）・新妻靖章（名城大）
P012#	オオセグロカモメのウミネコ雛および同種雛捕食の個体差	○北川達朗（北大院水）・綿貫豊（北大院水）

* ポスター賞応募の発表には#を付した。

発表番号	タイトル	発表者
P013	カンムリウミスズメの移動経路・離着水行動と海流の関係性	○中原亨（北九州市博）・山口典之（長崎大）・樋口広芳（慶応大）
P014#	大槌のウミネコはサケ稚魚を食べているのか？ －糞と血液を用いた食性解析－	○諏訪浩貴（東洋大）・佐藤信彦（東大大海研）・白井厚太郎（東大大海研）・田中健太郎（東大大海研）・北川貴士（東大大海研）・伊藤元裕（東洋大）
P015	At-Sea Congregation Monitoring of Japanese Murrelets at Birojima, Miyazaki-ken, Japan	○Darrell Whitworth (CIES) ・Kuniko Otsuki (Marine Bird Restoration Group) ・Yutaka Nakamura (MBRG) ・Yoshitaka Minowa (MBRG) ・Michael Parker (CIES)
P016	ウミネコ雛の生存に影響する気温に関連した微気候の変化	○富田直樹（山階鳥研）・水谷友一（名大院・環境）・鈴木宏和（名大院・環境）・成田章（八戸第一養護学校）
P017	人工托卵によるコアジサシ放棄卵の保護	○早川雅晴（植草学園大）・伴野修一（千葉市動物公園）・伊藤泰志（千葉市動物公園）
P018	コアジサシにおけるコロニーの形成過程と捕食に影響する要因	○西條未来（総研大／リトルターン・プロジェクト）・北村亘（東京都市大／リトルターン・プロジェクト）・沓掛展之（総研大）
P019	九十九里浜におけるコアジサシコロニーとシロチドリの関係	○守屋年史（バードリサーチ）・佐藤達夫（行徳野鳥観察舎友の会）・岩崎加奈子（行徳野鳥観察舎友の会）
P020#	採餌モデルによるコアジサシの利用海域推定とセンシティビティマップへの展開	○鎌田泰斗（新潟大大学院・自然科学）・向井喜果（新潟大大学院・自然科学）・望月翔太（福島大・農）・佐藤一海（新潟大大学院・自然科学）・佐藤雄大（新潟大・農）・関島恒夫（新潟大・農）
P021	対チョウゲンボウ用コアジサシ巣内雛保護シェルターの開発『見守る君』の効果について	○松村雅行・橋本直喜（NPO 法人リトルターン・プロジェクト）・奴賀俊光（NPO 法人リトルターン・プロジェクト／日本野鳥の会）・北村亘（NPO 法人リトルターン・プロジェクト／東京都市大）
P022	都立葛西海浜公園の人工なぎさにおけるシロチドリ、コアジサシ、ヒバリの営巣場所	○大原庄史（生態教育センター）・中村忠昌（生態教育センター）
P023	センサーカメラが明らかにした猛禽類の巣を利用する種：繁殖利用種とそれ以外の生物	○嘉藤慎譲（地域環境計画）・平井克亥（北海道ラプター）
P024	アクションカメラを用いた猛禽類の巣内観察：オオタカ、ハイタカ、ノスリについて	○平井克亥（北海道ラプター）
P025	センサーカメラを用いたクマタカの巣内モニタリング 巣内育雛期の撮影データの有用性	○松岡和樹・嘉藤慎譲（北クマ研／地域環境計画）・市野義成・渡辺義昭・渡辺恵・石田裕一（北クマ研）

[大会プログラム]

発表番号	タイトル	発表者
P026	CNN と鳴き声の音響スペクトログラムを利用したオオタカの活動と繁殖状況の推定	○牛込祐司（国際航業）・前川侑子（国際航業）・黒田治男（日本鳥学会）・松井孝典（大阪大）
P027	タブレット端末用アプリによる飛翔軌跡の記録の試み	○橋本啓史（名城大）
P028#	環境アセスメント業務に関わる調査員の情報から、猛禽類のディスプレイを解明する試み	○玉置こるり・猪狩敦史（とりがく Kansai）
P029	Cinereous Vulture flight Behavior	○Tehan Kang (KoEco) ・ Hansoo Lee (KoEco) ・ Si-Wan Lee (KoEco) ・ Shin Yong-un (CHA) ・ Jin Seon Deok (NIE) ・ Choi Sung Hoon (NIE)
P030#	ダムにおける外来魚はミサゴの内陸部への分布拡大にどのように貢献しているのか？	○榊原貴之（岩手大・院）・森航大（岩手大・院）・野口将之（魚鷹研究チーム）・吉井千晶（(株)建設技術研究所）・東淳樹（岩手大）
P031	勇払原野・弁天沼の周辺で繁殖するチュウヒの環境選択と行動圏の季節変化	○浦達也（野鳥の会）・酒井すみれ（酪大）・中山文仁（自然研）・北村亘（都市大）
P032	チュウヒ雄の羽色による個体識別の試み	○先崎啓究（道央鳥類調査グループ）・先崎理之（北大地球研）
P033	道路防災事業においてチュウヒの馴化から得られた知見	○土門優介・工藤晃央・鈴木祐太郎・中村紘喜・宮庄理子（(株)ドーコン）・一北民郎（北電総合設計(株)）・先崎啓究・先崎愛子（道央鳥類調査グループ）・川崎康弘・川崎里実（日本野鳥の会オホーツク支部）
P034	北海道北部オホーツク海側に生息するチュウヒの営巣環境	○鈴木祐太郎・土門優介・工藤晃央・中村紘喜・宮庄理子（(株)ドーコン）・一北民郎（北電総合設計(株)）・先崎啓究・先崎愛子（道央鳥類調査グループ）・川崎康弘・川崎里実（日本野鳥の会オホーツク支部）
P035	クマタカ生息域内のサンバ営巣地の一例	○中島京也・片野拓・竹田義次・小林健（日本ワシタカ研究センター）
P036#	里山景観を一変させる田植えのタイミングの地域差はサンバの生息地評価に差を生むか？	○鬼頭健介（東大・農）・藤田剛（東大・農）・伊関文隆（希少生物研究会）・宮下直（東大・農）
P037	個体識別によるイヌワシの移動分散	○前田琢（岩手県環境保健研究センター）
P038#	クマタカの飼育下における繁殖期の発声行動	○先崎愛子（道央鳥類調査グループ）・大内章広（北海道旭川市旭山動物園）
P039	カムリワシ幼鳥が成鳥羽を獲得するまでの換羽様式の推定	○猪狩敦史・中本純市・大西敏一
P040	天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」における保全整備工事と営巣状況	○本村健（中野市教育委員会）・重岡昌子（十三崖チョウゲンボウ応援団）
P041	青森県津軽地域におけるチゴハヤブサの営巣数減少	○立石淑恵（弘前大・院）・高橋雅雄・東信行（弘前大）

発表番号	タイトル	発表者
P042	トラフズクの巣およびペリットから発生した昆虫類	○浅野涼太 (Bio connect) ・小橋阜平 (Bio connect)
P043	音で知るフクロウの営巣活動と巣立ち：定位技術を活用した鳥類観測実例	○松林志保 (大阪大) ・斎藤史之 (いであ(株)) ・鈴木麗壘 (名古屋大) ・中臺一博 (東工大) ・ホンダ RIJ) ・奥乃博 (早稲田大)
P044#	行動圏解析から検討するリュウキュウコノハズクの育雛分担	○村上凌太 (北海道大)
P045	長期間録音の声紋自動生成と声確認による効率的な鳥の鳴き声抽出	○大坂英樹
P046#	主要な繁殖期餌生物から見る奄美大島における繁殖期リュウキュウコノハズクの採餌環境	○西村健汰 (中央大) ・井上遠 (東京大) ・鷺谷いづみ (中央大)
P047	キジの縄張りとは配偶関係について	○渡辺央 (新潟県野鳥愛護会)
P048#	繁殖上手なつがいはどのように侵入者に対処する？：なわばり防衛行動と繁殖成績の関係	○小野遥・澤田明・村上凌太・高木昌興 (北海道大)
P049	長野県におけるシノリガモの繁殖初確認	清水岳志 (伊那谷自然友の会) ・米山富和 (飯田市美博) ・○堀田昌伸 (長野県環境保全研)
P050	マガモは飛び立ち前に餌場を決めている？～GPS-TXによる飛行経路調査～	田米希久代 (鴨池自然研/鴨池観察館) ・○櫻井佳明 (鴨池自然研/鴨池観察館) ・中野夕紀子 (鴨池自然研/鴨池観察館) ・田尻浩伸 (鴨池自然研/(公財)日本野鳥の会) ・矢澤正人 (数理設計) ・櫻井佳由利 (鴨池自然研)
P051	カワラバトの海水吸飲事例について	○加藤ゆき (神奈川県博) ・重永明生 (日本ツル・コウノトリネット)
P052	シカの増加の影響が植生・宿主を通してカッコウ類へ	○植田睦之 (バードリサーチ) ・葉山政治 (日本野鳥の会) ・串田卓弥 (環境省生物多様性センター)
P053	アオシギは里山の身近な冬鳥です。(茨城県における生息状況とその生態)	○岸久司 (野鳥の会茨城県/龍ヶ崎バードウォッチングクラブ)
P054#	モズの越冬期の生息地利用が、はやにえ貯蔵量や求愛歌の魅力に与える影響	○西田有佑 (大阪市大) ・高木昌興 (北大)
P055	アメリカガラスの内在性ウイルス探索	○森岡勝樹 (世田谷区羽根木)
P056#	佐賀平野で越冬するミヤマガラスは何を食べているか	○服部南 (佐賀大院) ・松田浩輝 (佐賀大院) ・側垣共生 (鹿大・連合院) ・中村頌湧 (佐賀大院) ・徳田誠 (佐賀大)
P057	ハシブトガラスの巣、上から見るか？ 横から見るか？ -東北編-	○森下英美子 (文京学院大) ・松原始 (東大総合研究博物館)
P058#	ねぐらのカラス群におけるサルモネラ感染状況の通年モニタリング	○山口英美 (道総研) ・長雄一 (道総研) ・貞國利夫 (釧路市立博物館)

[大会プログラム]

発表番号	タイトル	発表者
P059	伊豆諸島におけるシジュウカラギルドの種多様性を決める要因	○藤田薫（東邦大地理生態・バードリサーチ）・藤田剛（東大農学生命科学）・長谷川雅美（東邦大地理生態）・樋口広芳（慶應大自然科学研究教育センター）
P060#	ハシブトガラスの画像認識能力に関する研究	○小原愛美（宇都宮大院）・青山真人（宇都宮大）・杉田昭栄（宇都宮大・東都大）
P061	ツバメは賑やかな所が好きか？—山梨県上野原市におけるツバメの営巣と交通量の関係—	○福本幸夫（広島大学日本鶏研究センター／元帝京科学大）・阿部竜也・辻大志・矢作碧梨・小林隆憲・黒須祐輔・国宗沙也加（元帝京科学大）
P062	ハイマツの分布によく一致するホシガラスの分布	○高木憲太郎（バードリサーチ）・森本元（LASP 富士山鳥類調査研究グループ）
P063	100年に一度の厳冬下でみられた燕尾の進化と正直な信号システムの崩壊	○長谷川克（石川県立大・生物資源環境）・新井絵美（総研大・先導研）・伊藤祥輔（藤田医科大・医療科学）・若松一雅（藤田医科大・医療科学）
P064#	佐賀平野におけるカササギの営巣場所と生息数の推移	○永淵拓歩（佐賀大・農）・佛坂安恵（佐賀市）・徳田誠（佐賀大・農）
P065	小笠原諸島—伊豆諸島 ツバメの渡り調査 2019 —DNA に地域差はあるか？—	○重原美智子・西海功（国立科博）・川上和人（森林総研）
P066#	メジロはなぜタラノキ・カラスザンショウの種子を好んで運ぶのか？	○亀井夢乃（金沢大院）・大河原恭祐（金沢大）
P067	秋季に天竜川河口を通過するウチヤマセンニューウについて	○川合正晃（日本鳥類標識協会）
P068	ムクドリ繁殖期における糞塗り行動	○越川重治（都市鳥研）
P069	岐阜県におけるジョウビタキの繁殖拡大について	宝田延彦（日本野鳥の会岐阜）・○大塚之稔（日本野鳥の会岐阜）
P070#	ジョウビタキの日本での繁殖期における食性解析と繁殖環境分析	○石井華香（慶応大）・山路公紀（日本野鳥の会）・一ノ瀬友博（慶応大）
P071	都市に生息する鳥はどの高さを利用しているのか	○三上かつら（バードリサーチ）・森本元（山階鳥研）・上野裕介（石川県立大）・三上修（北教大）
P072#	スズメの繁殖システム：つがい外交尾と種内托卵に着目して	○坂本春菜（北大院・理）・植村慎吾（北大院・理）・高木昌興（北大院・理）
P073	イソヒヨドリはなぜ内陸部に進出するのか 第2報 B	○川内博・粕谷和夫・柴田佳秀（都市鳥研究会）
P074#	樹洞営巣性鳥類の営巣環境をめぐる闘争行動—ニューナイスズメとスズメの種間比較—	○佐々木未悠（弘前大）・高橋雅雄（弘前大）・蛭名純一（おおせっからんど）・東信行（弘前大）
P075	イソヒヨドリを見ませんか？ SNS で呼びかけ集めた内陸イソヒヨドリの生息状況	○柴田佳秀（都市鳥研究会）
P076	スズメがとまれる（とまらない）糸や棒の太さ、細さは？	○山口恭弘（農研機構・中央農研・鳥獣害グループ）

発表番号	タイトル	発表者
P077	都市の緑地分布と歴史性が鳥類の多様性に及ぼす影響：金沢での鳥類相の時空間変異	○上野裕介・稲田亮介（石川県立大学）
P078#	高山性鳥類群集の季節的な動態とその駆動要因	○飯島大智（千葉大）・小林篤（東邦大）・森本元（山階鳥類研究所・東邦大）・長谷川雅美（東邦大）・阿部聖哉（電力中央研究所・東邦大）・村上正志（千葉大）
P079	センダイムシクイが繁殖期にさえずりを変化させるのはなぜ？	○川路則友（森林総研フェロー）・黒田治男（兵庫県太子町）・川路仁子（札幌市）
P080#	鳥類集団の音声コミュニケーション理解のための半野外音源定位環境の構築と予備的調査	○炭谷晋司（名古屋大）・鈴木麗壺（名古屋大）・和多和宏（北海道大）・有田隆也（名古屋大）・中臺一博（東工大/HRI）・奥乃博（早稲田大）
P081	フクロウの耳寄りな話	○川口敏
P082#	弾性ロッドモデルを利用したダチョウの首のしなやかさの推定	○郡司芽久（科博）・望山洋・安藤潤人・翠健仁・中川尚大・遠藤勇輔（筑波大）・新山龍馬（東京大）
P083	鳥の胸骨を測る	○清水伸彦（群馬県立自然史博）・姉崎智子（群馬県立自然史博）
P084#	骨内部構造から考察するペンギン類の水棲適応	○中原多聞・林昭次・奥田ゆう・皆木大生・小平将大・知花宇晃・亀崎直樹（岡山理大）・進藤英朗・久志本鉄平・上原正太郎（下関市立しものせき水族館）・村上翔輝・恩田紀代子（ニフレル）・石川恵・伊東隆臣（海遊館）・毛塚千穂・樋口友香（須磨海浜水族園）・安藤達郎（足寄動物化石博物館）
P085	雄化したキビタキの雌による繁殖の記録	○秋山幸也（相模原市博）・嶋崎一春・嶋崎えつ子（津久井湖城山公園S K Tボランティア自然班）
P086#	サンコウチョウにおける遅延羽色成熟の適応的意義	○能重光希（北大院・理）・植村慎吾（北大院・理）・大井紗綾子（元大阪市大・院理）・高木昌興（北大・院理）
P087	美の進化：性選択のゆくえ	○黒沢令子（バードリサーチ）
P088#	系統種間比較による羽装の模様進化の検討：粒々への感覚バイアスと水玉模様	○水野歩（北大院・生命科学院）・相馬雅代（北大・理・生物）
P089	タンチョウの風切羽の換羽間隔	○吉野智生（釧路市動物園/酪農大・獣医）・井上雅子（タンチョウ保護研究グループ）
P090#	鳥類の小翼羽形態と生態の関係	○田谷昌仁（東北大）・山崎剛史（山階鳥研）
P091	遺跡試料と文献史料から探るニホンライチョウの過去の分布	○久井貴世（日本学術振興会/北海学園大・人文）・江田真毅（北大・総博）
P092#	ブッポウソウの羽色と外部計測値による雌雄判別法の確立	○竹中悠（岡山理大・動物）・黒田聖子（兵庫県立大・地域資源マネジメント）・託見健（岡山理大・動物）・清水慶子（岡山理大・動物）

[大会プログラム]

発表番号	タイトル	発表者
P093	飼育下のヤンバルクイナのアクティビティと飼育環境	○島田将喜・山田朋実・中尾達郎（帝科大）・玉那覇彰子・向真一郎・吉永大夢・半田瞳・中谷裕美子（どうぶつたちの病院沖縄）
P094#	クイナ科鳥類の脳におけるウルストの発達具合の定量的分析	○中尾達郎（帝科大）・山崎剛史（山階鳥研）・荻原直道（東京大）・島田将喜（帝科大）
P095	ニホンライチョウ分布南限地域の標識調査による秋群れ期構成	○朝倉俊治（静岡ライチョウ研究会）・増田章二（静岡ライチョウ研究会）・近藤多美子（静岡ライチョウ研究会）・堀田昌伸（長野県環境保全研究所）
P096#	核 DNA を基にしたキジバトの集団遺伝構造について	○小島みずき（九州大・院／生態計画研究所）・西海功（国立科学博物館）
P097	三宅島で繁殖するアカコッコの周年の移動経路	○田尻浩伸・手嶋洋子・山本裕・鈴木敏祥・内藤明紀（(公財)日本野鳥の会）
P098#	小さな島にも遺伝構造、亜種ダイトウコノハズクは血縁者同士が近くに分布する	○澤田明（北大）・岩崎哲也（大阪市大）・高木昌興（北大）
P099	シマフクロウの繁殖成否 による給餌場利用率の変化 - 給餌量削減を意図して -	荒哲平・○稲葉一将・松本潤慶・田尻浩伸（日本野鳥の会）
P100#	琉球列島の島間で異なる音響環境に適応したさえずりによる生殖隔離	○植村慎吾（北大）・高木昌興（北大）
P101	ハジロ属潜水ガモ類の減少	○神山和夫（バードリサーチ）・加藤貴大（総研大）
P102#	チュウジシギの繁殖集団間における地理的変異と分類学的問題の解決	○小田谷嘉弥（我孫子鳥博）・山崎剛史・齋藤武馬（山階鳥研）
P103	千島列島の海鳥、キツネ類生息情報からシジュウカラガンの営巣可能性を評価する試み	○呉地正行・須川恒（日本雁を保護する会）
P104#	果樹園地帯におけるアカモズの繁殖失敗の要因を探る	○赤松あかり（信大）・青木大輔（北大）・松宮裕秋（EAC）・原星一（元信大）・堀田昌伸（長野県環境保全研）・泉山茂之（信大）
P105	出水市におけるツル類日中分散地区の利用状況	○原口優子（出水市ツル博物館クレインパークいずみ）・溝口文男（出水のツルと野生生物研究会）・宮崎泰子（出水のツルと野生生物研究会）・茂原晴代
P106#	飛行特性を反映させた大型水禽類 4 種のセンシティブティマップ	○佐藤一海・向井喜果・鎌田泰斗・佐藤雄大・山田新太郎・関島恒夫（新潟大）
P107	葛西海浜公園・葛西臨海公園におけるクロツラヘラサギの飛来傾向の変化	○中村忠昌（生態教育センター）・大原庄史（生態教育センター）・恩田幸昌（日本野鳥の会）
P108	2018 年～2019 年にかけてのシマアオジの調査及び保全活動	○シンバ・チャン（バードライフ・インターナショナル東京）
P109	野鳥から見た防鳥ネット	○境友昭（鳥類保護連盟）・内田初江（野鳥の会茨城県）
P110	野外コウノトリの採食生態	○武田広子（豊岡市立コウノトリ文化館）

発表番号	タイトル	発表者
P111	夜間のハス田におけるカモ類の採食方法とその頻度の解明	○池野進・飯田直己・大槻佳生（日本野鳥の会茨城県）・安藤温子（国立環境研究所）
P112	冬みず田んぼをカモの餌場として機能させるのに効果的な1枚の水田の広さ	○伊豆川哲也（オリエンタルコンサルタンツ）
P113	北海道石狩地方における草原性鳥類の農地利用	○玉田克巳（道総研環境科学研究センター）
P114	平成30年西日本豪雨被災地におけるツバメの被災後最初の営巣場所選択について	井川緑・井川快晴・井川賢一（岡山県倉敷市真備町川辺）・○江田伸司（倉敷市立自然史博物館）・多田英行（日本野鳥の会岡山県支部）
P115	東日本大震災後の蒲生干潟における鳥類生息状況Ⅱ	○佐場野裕・上村左知子・中嶋順一（蒲生を守る会）
P116	汚染地域、非汚染地域間のツバメの部分白化の出現頻度の比較と汚染部位について	○山本裕（(公財)日本野鳥の会）・佐藤信敏（佐藤信敏写真事務所）・苅田章（日本放送協会）・森敏（NPO法人WINEP）
P117	ワイン袋は友達になれるか	○益子美由希（国総研）・徳永幸彦（筑波大）
P118#	カワウのコロニー形成における水面結氷とアオサギの影響	○本多里奈（岩手大・院・連合農学）・東信之（弘前大）
P119	サギ類集団繁殖地における地域住民主体の防除対策	○森部絢嗣（岐阜大）・風間健太郎（早稲田大）
P120	東京近郊におけるアオサギ繁殖地の最近の分布と特性 - 人の近くにじわじわ進出？	○白井剛（都留文大／和光大）
P121	カラス追い払い装置「CrowController」の効果と忌避行動のモデル化	○永田健・塚原直樹（CrowLab）・服部南・徳田誠（佐賀大）
P122#	カラス類による電柱への営巣の傾向と対策：どうすれば停電の発生頻度を下げられるのか	○藤岡健人（北教大・函館校）・森本元（山階鳥研）・三上かつら（バード・リサーチ）・三上修（北教大・函館校）
P123	農業用ビニールハウスを破くカラスをテグスで防ぐ	○吉田保志子・佐伯緑（農研機構・中央農研）
P124#	分散障壁と生息地に着目した特定外来種ガビチョウの分布拡大パターン解析	○菊地智久・藤田剛（東大・農）・植田睦之（バードリサーチ）・宮下直（東大・農）
P125	GPS ロガーによって得られたワカケホンセイインコの繁殖期における行動範囲の一例	○松永聡美（公財日本鳥類保護連盟）・藤井幹（公財日本鳥類保護連盟）
P126#	都会暮らしのドバトは黒くなる？	○高田陽（明治大・院）・加藤貴大（総研大）・倉本宣（明治大）
P127	籠抜けによる非在来種飼鳥の屋外への流出	○西田澄子（バイオ科学技術翻訳）
P128	市民調査による大阪府の外来鳥ハッカチョウの分布の把握と、繁殖地での出現パターン	○和田岳（大阪市立自然史博物館）
P129	普及活動としての探鳥会の効果的な開催方法を考える	○小泉伸夫（日本野鳥の会東京／農研機構）
P130	博物館の部活動：芥川鳥類調査隊の活動について	○高田みちよ（高槻市立自然博物館）
P131	産卵期のヤマドリ猟と非産卵期のキジ猟：栃原岩陰縄文人の狩猟戦略	○江田真毅・渡辺双葉（北大）

[大会プログラム]

発表番号	タイトル	発表者
P132	近世博物誌史料に記載される「みやまがらす」とミヤマガラスの関係	○許開軒（北大院・文）
P133	山階鳥研の所蔵標本から見つかったグールド標本とその歴史	○小林さやか（山階鳥研）・黒田清子（山階鳥研／玉川大教育博物館）・加藤克（北海道大）
P134	江戸最後の将軍が撮ったコウノトリ？	○時田賢一（慶応大）
P135	写真に遺る失われた伝統狩猟の記録 —その保存の意義を考える—	○鶴見みや古（山階鳥研）・吉田成（東京工芸大）
P136	水禽類を対象とした、流しもち縄猟と張切網猟の、復興。	○山崎健介（コンサルタント）
P137	質量分析を用いた鳥類骨の同定	○泉洋江（北大総博）・江田真毅（北大総博）・川上和人（森林総研）

<高校生ポスター発表>

コアタイム：15日（日） 13:00～15:00

会場：5階アリーナ

発表番号	タイトル	学校名	発表者
Y1	三重県北部におけるフクロウ (<i>Strix uralensis</i>) の繁殖分布	三重県立四日市西高等学校	大西一生・鈴木勝也・前河大裕・石田匠・丹下浩
Y2	風切羽の微細構造の観察	桐朋中学校・高等学校 生物部 鳥類班	阿知和直生・袋田和也・澤田怜央・宮下彰久
Y3	カラスバトはどのような環境を好むのかー伊豆大島での調査結果から考えるー	東京都立国分寺高等学校	藤島優也・東口朋世・玉山ありさ・福島崇太・阿部萌果・高橋慧・小川拓真・市石博
Y4	野鳥観察と羽毛などの遺伝子解析	兵庫県立尼崎小田高等学校 鳥類研究班	荒木岳士・奥山浩喜・篠原律貴・田中愛・原田侑季・松岡栞・森彩花・新谷翼芽・阿部凌大
Y5	ワカケホンセイインコ の東京都内生息分布と生態に関する SNS を活用した調査	早稲田大学高等学院 理科部 生物班	石塚匠真・秋山和広
Y6	ロシアカツバメはなぜ減少したのか？	栃木県立黒羽高等学校	齋藤愛友・黒崎栞・稲垣友都・印南丈・松本通亮・西海恵太・井上早友里・福井亘
Y7	ロシアカツバメはアリが大好き	栃木県立黒羽高等学校	印南丈・稲垣友都・黒崎栞・齋藤愛友・松本通亮・西海恵太・井上早友里・福井亘
Y8	ケリの繁殖状況に関する考察	岐阜県立岐阜農林高等学校 動物科学科	河村佳世・高橋実来・横山夏希・福井強志
Y9	下校時におけるヤマシギ調査	千葉県立佐原高等学校	及川樹也

[大会プログラム]

<自由集会>

13日(金) 15:30~17:30

発表番号	会場	タイトル	主催者
W01	7201 教室 (2階)	第3回 収蔵庫は宝の山！ 一標本の収集と保存を考えるー	小林さやか・岩見恭子(山階鳥研)・加藤ゆき(神奈川県博)
W02	7404 教室 (4階)	イソヒヨドリの繁殖地拡大を考える・II	川内博・柴田佳秀・越川重治・橋本啓史(都市鳥研究会)

13日(金) 18:00~20:00

発表番号	会場	タイトル	主催者
W03	7201 教室 (2階)	カワウを通じて野生生物と人との共存を考える(22)ー関東調査20年間を振り返るー	熊田那央(バードリサーチ)
W04	7205 教室 (2階)	若手の会 presents「鳥類研究 x IT」	上沖正欣(琉球大)・竹重志織(放送大)・高田陽(明治大)・井上遠(東京大)・大隅梨央(鳥根大)
W05	7402 教室 (4階)	幕田晶子さんのイラスト作品の水鳥と湿地保全への貢献(第23回 JOGA 自由集会)	呉地正行・須川恒(日本雁を保護する会)
W06	7404 教室 (4階)	謎の鳥・シマクイナの生態に迫る	先崎理之(北大地球研)・小田谷嘉弥(我孫子鳥博)・高橋雅雄(弘前大・NPO 法人おおせっからんど)・福田篤徳(野鳥の会茨城)

14日(土) 17:30~19:30

発表番号	会場	タイトル	主催者
W07	7201 教室 (2階)	大規模太陽光発電施設の鳥類への影響を考える	佐藤重穂・北村亘・金井裕(日本鳥学会鳥類保護委員会)
W08	7204 教室 (2階)	小笠原で一番ヤバイ鳥:オガサワラカワラヒワを絶滅の淵から救う	南波興之(日林協)・川上和人(森林総研)・小田谷嘉弥(我孫子市鳥博)
W09	7205 教室 (2階)	グリーンインフラのアフターケア:鷺山を巡る軋轢と対処を考える	益子美由希(国総研)
W10	7402 教室 (4階)	みんなで作ろう! 目録8版	西海功・金井裕・山崎剛史・小田谷嘉弥・亀谷辰朗・齋藤武馬・平岡考・池長裕史・板谷浩男・大西敏一・梶田学・先崎理之・高木慎介(目録編集委員会)
W11	7404 教室 (4階)	鳥類学を活かせる仕事とは?: NGO で働くという選択	佐藤望(バードリサーチ)

< 展示販売 >

13 日 (金) 15:00~18:00

14 日 (土) 9:00~18:00

15 日 (日) 9:00~17:00

会場：5 階アリーナ

ブース 番号	出展者	展示・販売内容
a	【はくラボ】認定 NPO 法人大阪自然史センター	博物館オリジナルグッズ、書籍、古書
b	包み屋 kurumiya	野鳥柄のハンドメイドアクセサリ・グッズ
c	極東貿易株式会社	レーザーレンジファインダー
d	株式会社一心助け	鳥獣被害対策天敵立体視シート (カラス等対策用)
e	Lotek Wireless	ロガー、発信機
f	株式会社ティンバーテック	GPS ロガー
g	(株) キュービック・アイ	アルゴス
h	Biologging Solutions Inc.	データロガー
i	旅するミシン店	動物生態学書籍、布製ブックカバー
j	公益財団法人日本野鳥の会	書籍、グッズ
k	KoEco	発信機
l	谷口高司鳥絵工房	野鳥図鑑画家が描くオリジナル商品
m	ティアック株式会社	野鳥録音用 IC レコーダー
n	ぶんぶん堂	木彫りとブリキ雑貨
o	栃木屋工房	野鳥グッズ
p	株式会社地域環境計画	野鳥撮影用トレイルカメラ (自動撮影カメラ)
q	利尻自然史研究室	うみねこんぶ
r	ドルイドテクノロジー有限公司 (Druid)	発信機 行動分析・データ管理システム 可視化ツール
s	株式会社 数理設計研究所	発信機、調査機器
t, u	野鳥生活	野鳥ステッカー